

## トルコの金融市場動向 Weekly Report

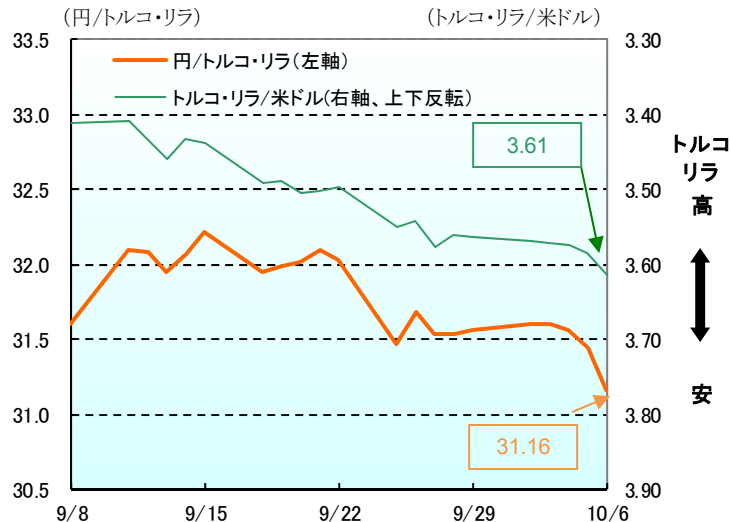
【2017年9月30日～2017年10月6日までの推移】

### 【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドル、対円で下落しました。またトルコの2年国債金利については、金利上昇となりました。

注目されていた9月の消費者物価指数については、市場予想とほぼ同水準となりましたが、食料品や飲料、エネルギー、タバコ、金などを除いたコア消費者物価指数は市場予想を上回る上昇となりました。コア消費者物価指数の上振れやクルド人自治区をめぐる地政学リスクへの懸念が材料視されたほか、米国の金融引き締め観測の高まりも金利上昇、トルコ・リラ安要因となりました。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2017年9月8日～2017年10月6日)



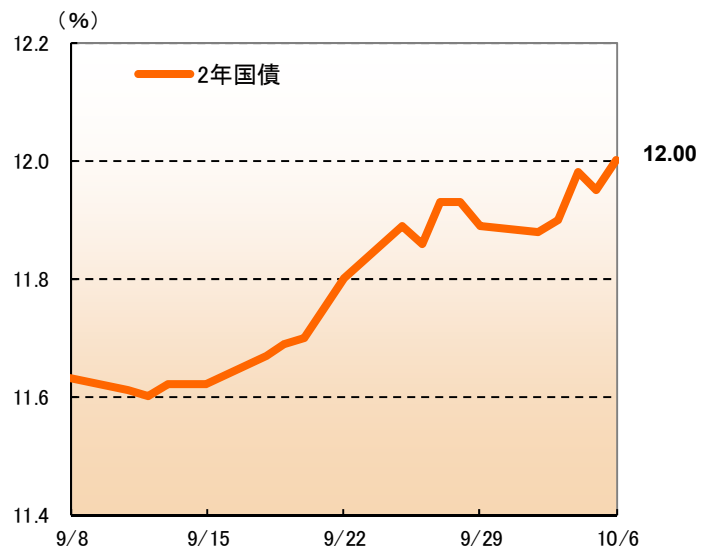
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

### 【2】今週の見通し

10月8日(現地)にトルコと米国が互いにビザ(査証)発給業務を停止するなど、対米関係の悪化が懸念される状況にあります。しかし中東情勢をめぐる状況などを考慮すれば、米国がトルコとの関係をさらに悪化させることは望んでいないと考えられます。米国との関係悪化による市場の混乱の程度、持続性および経済への影響や、関係各国の利害関係を見極めながら、今後の状況を注視する必要があると考えます。

またクルド人自治区をめぐる地政学リスクの動向に関しても、引き続き注意が必要な環境になると考えます。

【トルコ 金利推移】 (2017年9月8日～2017年10月6日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

#### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>